環境情報コース	９５６６	氏名　西井　康美	指導教官　市川　智史　先生

論文題目	神戸市内のホテルにおける環境問題への取組み状況と今後の方策

１．はじめに

近年、企業に対して環境保全対策、環境経営等の環境への取組みが求められてきている。ホテル業界においても 19 社（2002 年現在）が ISO14000 の認証を取得しており、環境への取組みが進められてきている。本研究では筆者が居住している神戸市内に的を絞り、市内のホテルがどのような環境への取組みを行っているかを明らかにし課題を考察するとともに、ホテルを利用している人たちの意識や大手ホテルの取組み等と対比させることを通じて、神戸市内のホテルにおける改善策を考察する。

２．ホテルの環境への取組みの概況

先行研究（省エネルギー、有機性廃棄物の削減、海外ホテルの取組み、台湾の利用者調査）や大手ホテルチェーン５社への郵送による調査、４社のホームページより現在のホテル業界の環境問題への取組み概況を整理した。

３．神戸市内のホテルの取組み状況調査

神戸市内のホテルの環境問題に対する取組みの実態を明らかにするため、合計 83 ケ所を調査対象とし、アンケート調査を行った。回収総数は 56 ヶ所（有効回収率 67.5%）である。調査項目は記入ホテルの概要、ホテルの環境問題への取組みに対するする意識、実際の取組み内容、自由記述である。

回収ホテルの構成として中小規模のホテルが多く、現在の神戸経済の落ち込みも考慮すると費用的に余裕がないといえる。環境問題に取り組むことがホテルのイメージアップにつながると考えているホテルが８割にも及ぶにも関わらず、利用者に内容を知らせているのは３割弱である。また、各ホテルではなく行政主導あるいは地域・業界全体のホテルで行うことを望んでおり、神戸市内における宿泊施設の廃棄物排出量の６割を生ゴミが占めていることがわかった。だが、生ゴミ処理方法の大半が現状では焼却処理となっている。そして、相対的な取組みにおいては９割のホテルが何らかの環境負荷軽減策を行っていると答えているが、具体的な取組みにおいては客室に関する取組みでコストの削減につながると思われるものに対しても顧客離れの懸念から行われていない状況である。

４．ホテル利用者の意識調査

調査３よりホテル側が顧客離れの懸念より実施しづらいと思われる項目について、実際に利用者がどのように感じているのかを明らかにするため、社会人及び主婦（学生を除く）150 人に対してアンケート調査を行った。調査項目は回答者の属性、環境活動の有無、不便を感じる取組み、環境配慮ホテルの利用、自由記述である。

回答者の属性は、利用目的で旅行が仕事を倍近く上回っているものの、男女の比率はほぼ等しく 20 歳～50 歳未満で環境活動を行っていな人が７割であることより比較的一般的な意見と考えてよいであろう。不便を感じると予想される取組みに関しては、「客室に使い捨て歯ブラシを常設していない」を除く全ての項目において６割以上の人が不便を感じないと答えている。環境に配慮しているホテルを利用すると答えた人は７割弱に及ぶが、３割の人が「どちらともいえない」と答えており、環境問題に対する関心はあるものの宿泊料金や立地条件といった要因が選択の基準となる割合が高いということがいえるのではないのだろうか。

５．考察

神戸市内のホテルでは、「コスト削減につながり手間がかからない」、「環境負荷軽減策に対する利用者の理解や協力を求める」、「生ゴミの削減」といった取組みが課題として挙げられる。だが、生ゴミの処理方法として堆肥化や電力化といった方法があるものの設備投資が大きく、利用者の環境問題に対する関心は高まっているとはいえ第一の選択基準となることは難しいなどの問題があることを否めない。ゆえに、ホテルの資金力の差異が影響しないような横並びな取組みであるとともに、環境負荷軽減策に関する情報が公平に発信されることが求められる。よって、今後の方策として「国や自治体が中心となりホテルに働きかけ、神戸市内のホテル全体で取り組んでいくこと」や「利用者の環境問題に対する意識を高める啓発活動を積極的に行うこと」がいえる。